# ６月 HUG だより

情報提供者：やましろ小児科　山城 武夫

６月のテーマ：緊急時対応（救急車の目安・熱性けいれん・誤飲等）

こどもの緊急時、その表現は年齢によりかなり違います。乳幼児では意識障害の有無、応答の有無、呼吸の状態（咳き込み、喘鳴、浅い呼吸、早い呼吸等）、疼痛の表現（泣く、触れると反応的に嫌がる、顔色等）運動制限の表現等様々です。年齢が増すにつれ言葉での表現、動作での表現が可能となります。すべての疾病、事故（熱傷・誤嚥・中毒等）では共通して言えることは意識障害、顔色、発熱、けいれん（短時間であれば経過観察する）の状態で救急車を呼ぶことを検討しましょう。

**熱性けいれん**：生後６ヵ月～60 ヵ月に起こり、38℃以上の発熱を伴う発作性のもので、短時間であれば（5 分程度）様子を見て良いでしょう。また、熱性けいれんの家族歴のある場合や、繰り返しけいれん発作を起こすお子さまは注意しましょう。ただし発熱の原因、特に生後３カ月未満の乳児は入院して調べる必要があります。気道確保のために口に何かを入れることはしないで下さい。気道を伸ばすようにし抱っこで首を前屈させないで、嘔吐があれば吐物の誤嚥を避けるように口腔内の拭き取りをしましょう。

**熱中症**：昨今、５月末でも日本列島には猛暑日、真夏日が報告されてきました。乳幼児では体が特に地面に近く（駐車場など木陰の無いアスファルト面）日傘、帽子など直射日光をさけても輻射熱の影響が強く気を付けることが大切です。早めの水分補給、冷却おしぼりなど外出時には必要アイテムです。救急車の必要は初期手当をしても、頭痛、嘔吐、だるさが進行し、歩けない、呼びかけに応じない時には迷わず判断しましょう。

**誤飲・誤嚥：救急車を呼ぶ**

- 窒息の疑いのある時（のどを押さえる、口に手を入れる、声を出せない、呼吸が苦しそう、顔色が青白い。飲んだものが灯油、ベンジン、除光液、農薬、殺虫剤など毒性以外に揮発性があり嘔吐で肺に吸い込むことがあるもの）は迷わず呼びましょう。
- 急いで受診（突然咳き込む、呼吸がゼーゼー、ヒューヒューしている、吐く、下痢、腹痛など、声がかすれている。症状がなくても飲んだものがボタン電池、ヘアピン、針など鋭利なもの、磁石、洗剤、吸水性樹脂、芳香・消臭剤、防虫剤、漂白剤、タバコ）しましょう。

どう対処してよいか迷ったら医療機関やこども医療電話相談＃8000（相談時間帯の制限があります。三重県の場合月曜～土曜は 19 時か翌朝８時まで。日曜・祭日・年末年始は 24 時間対応しています）。に相談しましょう。